国　　語

注　意

1. 問題は全部で27ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし，マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. **日本文学科受験者は問題四も解答すること。**
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが，どのページも切り離してはいけない。
7. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. ＨＢの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ◯ を塗りつぶしなさい。◯で囲んだり╳をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が 1 のとき)

1	● ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪

4. 一度記入したマークを消す場合は，消しゴムでよく消すこと。╳をつけても消したことにならない。
5. 解答用紙をよごしたり，折り曲げたりしないこと。

一　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

芭蕉の愛好家としてのわたしは、いつも複雑に分裂している。それは俳諧一般についていえることなのだが、とりわけ芭蕉のような詩人の場合に顕著である(蕪村については、それほどでもない)。

一方でわたしは、句が成立した状況や、それが典拠としている過去の詩作品をショウリョウし、できるだけ多くの知識を前提としたうえでテクストに臨みたいと思う。句が表象しているはずの、唯一にして正確な解釈に到達したいという欲望が、この姿勢の背後には横たわっている。だがもう一方でわたしは、そうした起源への意志をめぐる欲望の一切をあえて封じ込め、テクストに喚起されるまま、こちら側の想像力を自在に飛翔させてみたいという気持ちに、強く捉われてもいる。句との関係を真実の審級から解き放ち、水に投じた水中花がしだいに開いていくさまを眺めるかのように、一句が醸し出す曖昧な幸福感[1]を快楽として受け留めておくこと。このいずれの立場をとるかで、ひとつの句がまったく異なった表情を見せるという事態を、わたしはしばしば体験してきた。どちらの立場に身を任せるかは、句によっても異なっていて、これはそれぞれに範疇を構成している。読み手のわたしに最初の立場を求めてくる句もあれば、自然と第二の立場へとわたしを向かわせてしまう句もある。

いささか抽象的な話が続いたが、具体的な句を前にして語っておきたいと思う。まず最初の範疇[2]。

はつ秋や海も青田の一みどり
名月はふたつ過ても瀬田の月
田一枚植て立去る柳かな

最初の句を理解するためには、それが詠まれたのが伊勢湾の干拓地鳴海においてであったことを、「前書」を通して知っておけばこと足りる。少なからぬ俳句があまりの短さと凝縮力ゆえに、前書という名の自己解題を必要としてきた。その意味でこの文

学的ジャンルは、二〇世紀後半の美術作品の、意図せざる先駆者であったといえる。ダリやデュシャンの美術作品と同じく、いずれもが自己言及の言説を内側に含みこんでこそ、はじめて成立するからだ。「鳴海眺望」という前書は、単に付加的なものではなく、[3]句の内側に構造化されたものである。

三番目の句はどうだろうか。柳が田植えをする？　これをもし字義通りに受け取るならば、さながらロートレアモン伯爵の散文詩に似た、超現実主義的光景となるだろう。わたしはそうした荒唐無稽に魅惑されなくもないが、もし謡曲の『遊行柳』を知っていたとすればこの荒唐無稽の映像はたちどころに氷解する。柳の朽木の精が旅の僧の厚情に感謝して舞踏を披露し、心清らかにその場を立ち去ってゆくという物語である。芭蕉が属していた文学的共同体の内部にあっては、こうした先行する文学・演劇作品をめぐる知識は自明のものとされていた。立ち去る者が句の作者である[4]芭蕉本人に他ならないことは、いうまでもない。この共同体から遠く隔たった知的辺獄（リンボ）に生きているわれわれは、まずインターテクスト*の網の目を辿（たど）るという努力なしには、句の起源の意図に接近することができない。幸田露伴から安東次男まで、時代ごとに評釈集が執筆され続けてきたことの意味は、ここに存している。

「田一枚」の句がイデオロギー的に顕彰しているのは、永遠の旅人の原型としての芸術家の映像である。主人公とは文学の精霊なのだ。そしてこの句は、『おくのほそ道』というなかば虚構化された旅行記のなかに置かれることで、書物の多層的構造をいっそう強固なものにしている。現実になされた東北地方への旅行はエクリチュール*のための口実にすぎない。芭蕉は杜甫白楽天から定家宗祇まで、先行する夥（おびただ）しい書物の堆積のなかを旅行している。自分が単にある文学作品の作者であるばかりか、文学史そのものの擬人化であるという演劇的自覚において、芭蕉には二〇世紀のボルヘスに似たところがある。彼は死後、単なる俳諧師の域を越え、人生の達人として聖人化されることになった。国民的偉人と見なされ、その霊を祭る神社までもが建てられた。こうした神話化は彼のなかば期待し、予想するところではなかったかと、わたしは少し意地悪く想像している。

だがここで、本稿の冒頭に掲げた[5]第二の範疇を考えてみよう。芭蕉のなかには、詮索を重ねることが詩的興趣の軽減に通じてしまうことになる句が、いくらでも存在している。三世紀半にわたって多くの評釈者、研究者がさんざんに議論を重ねてはきた

ものの、いっこうに究極的な一義的解釈に絞りこむことができないでいる類の句を、試みにいくつか列挙してみよう。

八九間空で雨ふるやなぎかな
合歓の木の葉ごしもいとへ星のかげ
行く春や鳥啼き魚の目は泪

最初の句で、一五メートルに及ぶ空間的拡がりとは、いったい柳の高さなのか、幅なのか。それとも雨の降りしきる範囲なのか。この問題は、いかなる評釈書を紐解いてみても一義的に特定することができない。読む者を強く印象づけるのは、ただただ柳の大木の下にあって曇天を見上げるという身振りである。それはいかなる隠喩化をも拒絶する、作者の身体の現前だ。もしこの句に究極の意味内容があると仮定するならば、それは作者の身体性に帰着することだろう。それ以降は、各人の詩的夢想の跳梁する領域となる。わたしはといえば、細やかに降下する雨粒と柳の枝垂れぐあいの重なりあうさまが、仰角という眼差しにみごとに拮抗しているあたりに、句のみごとさがあると思う。[6] この句は自由に遊ばせておけばいいのだ、という気がしないでもない。明治以降の俳句のモードとなった「写生」という観念を無理やりに適用することは、この句のもつポエジーの枝葉の拡がりぐあい、重なりぐあいをいたずらに撓めてしまうだけのことだろう。

二番目の句はわたしを、芭蕉とその時代という文脈を離れ、西洋文学をも含めたより広い文学的想像力の世界へと連れ出してくれる。ここでも前句と同じく、見上げるという身振りが句の中心にある。『猿蓑』の秋発句の部に置かれたこの句は、芭蕉が直江津に滞在しているときに成立した。越後の地にあっては七夕の際、しばしば合歓の木の小枝を用いるという民俗学的知識が、そこでは解釈の前提とされている。木の葉が重なりあっていると、星の光が隠されてしまう。牽牛と織姫の逢瀬を無事に達成させるには、何を気遣えばいいのか。おそらくこうした軽い気持ちから成立した句なのだろう。

[7] だがここで思い切って、合歓の葉が儀礼として川に流されたものだと、大胆に仮定すればどうだろうか。そのとき「星のかげ」

とは暗い水面に葉の隙間から微かに煌(きらめ)く光と化し、可視と不可視をめぐって、より稀有な情趣を湛(たた)えることになるだろう。最終的にわたしを包みこむのは、この一七音がもたらす巨大な宇宙論的感覚である。

（四方田犬彦『日本の書物への感謝』による）

（注）

＊インターテクスト…間テクスト性。テクストの意味の解釈に別のテクストから得られる知識が必要なこと。

＊エクリチュール…フランス語で、文字や筆記や書く行為のこと。

問一　傍線部1「曖昧な幸福感」とあるが、それはどういう意味か。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 1 。

① 水中花がたちまち閉じてしまうその一瞬の美を味わう感覚。

② テクストの不正確さにいらだちながらもある種の感覚をとらえること。

③ 自由な想像力を働かせることで徐々にその美がわかってくること。

④ テクストに望まれる限りの知識を駆使しながらも十分ではないことを自覚する感覚。

⑤ 俳諧という文学形式の持つ限界を熟知した作者ならではの快楽。

問二　傍線部2「最初の範疇」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 2 。

① 芭蕉の愛好家としての立場
② 複雑に分裂した愛好家としての立場
③ 多くの知識を前提として正確な解釈を得る立場
④ 想像力を自由に飛翔させてみたい立場
⑤ 芭蕉と蕪村とを対比させてみる立場

問三　傍線部3「句の内側に構造化されたものである」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 3 。

① 前書も句の不可欠な一部であり、それ自身がその句を説明している。
② 俳句にかならず前書が必要であることを意味している。
③ 短詩形としての限界を句の内部の充実によって補っている。
④ 五七五という俳句の形式がそれ自体見事な秩序を保っていること。
⑤ 暦などの外部の知識なしに内部の情報だけで解読ができること。

問四　傍線部4「芭蕉本人に他ならない」とあるが、なぜか。その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 4 。

① 芭蕉は後代になって霊を祭る神社まで建てられたように霊的な存在と考えられていたから。
② 文学作品にはかならず典拠があり、それを知っているのは作者自身であるから。
③ 時代毎に新しい知識が必要とされ、芭蕉の時代の常識がこの句には反映されているから。
④ 句の本質に迫るには、その主人公を作者であると仮定する以外にはないから。
⑤ 虚構の主体と作者とが同一化しており、柳でもあり、芭蕉でもあるから。

問五　傍線部5「第二の範疇」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 5 。

① 「田一枚」の句がイデオロギー的に解釈できるとする方法
② できるだけ多くの知識を前提とした解釈を行う方法
③ 読み手としてのわたしに最初の立場を求めてくる句
④ 想像力を自在に用いて読者の自由な発想で読む立場
⑤ 国民的偉人となった芭蕉という固定観念による理解

問六　傍線部6「この句は自由に遊ばせておけばいいのだ」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 6 。

① とりあえず自分の持つ知識の範囲で理解しておく程度で十分だ。
② 放置しておいてよいほどあまり重要度は高くない。
③ 作者の持つ遊びの精神を尊重しておくことが重要だ。
④ 句の持つ様々な可能性を否定しないで、自由に解釈するのがいい。
⑤ 解釈自体を放棄してしまってその論理性を否定すべきだ。

問七　傍線部7「だが」とあるが、ここではどういう意味なのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 7 。

① 新たな解釈を提出する「添加」の意味を示している。
② 仮定文の前提としての「留保」の意味を示している。
③ 句の解釈を大きく転換する「逆接」の意味を示している。
④ 思い切った解釈を提出するための「強調」の意味を示している。
⑤ 最終的な結論を導き出す「導入」の意味を示している。

問八　この文章の作者は、芭蕉についてどのような考えを持っているか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 8 。

① 芭蕉の句の世界は、厳密な読みにも、読者の自由な発想にも耐えうる複雑で多様な構造を持っている。

② 芭蕉の句の世界は、まったく異なる二つの要素が分裂した状態で存在することが好ましい。

③ 芭蕉は日本文学の世界の中でも、西洋文学を含めた広い世界を最初から目指している。

④ 芭蕉は二〇世紀になってから聖人とみなされるようになったと考えている。

⑤ 芭蕉の句の解釈はほとんど無理なほど難解である。

問九　二重傍線部「ショウリョウ」を漢字で書くとき、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 9 。

① 秤量　② 省領　③ 生霊　④ 渉猟　⑤ 抄料

二　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

*天満に商人あり。誰もとつかはしはすのころ、1銀子さいかくのため、京伏見にのぼるに、ととのはざれば、昼舟に乗りて、我が家へは夜になりてかへるに、内にはや戸をしめたり。2やがて門たたくに、しばし開けず。あらけなくいかりければ、やう〳〵あけたり。内に入れば、妻3不興気にして、当惑したる体なり。男も銀はえかり出さず、ぶきげんにして、そこら見まはすに、常ながもちに入れし道具ひきちらし、あまさへいとぶさの4大ずずあり。ふしぎにおもひ、とりて見れば、我がたのみし長老のずずなり。さては我がつまと密通して、こよひ忍び、せんかたなさに、長持にかくれしなり。さて〳〵無念なる事。ひき出し、きりて捨つべしと思ひしが、*とてもわが恥も四方へ知れなんと、しばし5かんにんのむねをさすり、妻にむかつて云ふやう、「銀子のさいかくかなひがたし。質物にてかり出すべし」と、傅夫二人やとひ、かの長持に錠をおろし、その夜にもちて出づる。妻みてかなしび、「それはけふ、ものをとり出し、中に何もさぶらはず。たが質にとり申すべき」といふ。夫きき、「よしあきながもちにても、銀はかりてこんぞ。6小言ないひ［　A　］」とて出づる。

さて、かの寺にゆき、門をたたくに、*同宿出でて、「お留守」といふ。「いや、何屋の誰にて御座候ふ。長老様へ仰せられ下さるべく候ふ。当年、ことのほかてづまり申し候ふ。7ちかごろ〳〵御無心の事に御座候へども、*銀子三貫目御貸し下され候ふやうに。また、この長持に我ら所帯道具*一跡、いれおき申し候へば、まづ質に入れ申し候ふ。すなはち、鎰はこれに御座候ふ。明朝早々かりに参り申すべく候ふ。御かへりなされ候はば、この段よきに申し候へ」といふ。同宿ききて、「まづ請けとりはいたし候ふ。銀子の義、いかが御座あるべく候ふか、御口上のとほりは8申し聞こゆべし」といふ。「かたじけなし」とてかへり、さて明くる日、また寺へゆく。同宿出あひて、「ゆふべの事、長老に申し聞こえ候へば、『やすき事』とて、すなはち『この三貫目進じ申し候へ』と申され候ふ。なほまた、『日ごろ御懇意の旦那の御事なれば、この三貫目あり合ひ候ふから、沙汰なしに進じ申し候へ』と申しつけ候ふ。『御目にかかるべく候へども、夜前深更にかへり候ふから、9御ことわり申し候ふと申せ』との事に御座候ふ」なんど、*お髭の塵をとるまでのあいさつなり。をとこ聞きて、「さて〳〵お寺から里へと銀永う下さるべき義、かたじけなくぞん

じ奉り候ふ。しからば、お寺のものをただにもらひ申すも冥加なく候へば、足りは仕るまじけれど、この長持の物、みなあげ申し候ふ。長老様へよきに申させ給へ」といへば、同宿ききて、「ながもちは、いはれぬ事なされて、よく進ぜられ候ふ。辞退申さるべけれど、御心入れにて候へば、納められ候ふやうに申すべく候ふ」と、色代ありて男は出でぬ。

女房はいかがはからひしや。気味よき分別、理の常か。あらはれて恥の巷に漏れば、いかばかり口惜しからん。我が恥、人の恥を隠し、我も徳を得、人も命を得る。また案の厚きか。重ね斬りの道具たるべけれど、恥は後代まで残らん。

（『宿直草』による）

（注）

＊天満…大阪市北区東南部。淀川と天満堀川に囲まれる地域。

＊とつかは…急ぎあわてるさま。

＊とても…「とてもかくても」の略。いずれにしても。

＊同宿…師と同じ寺に住み、その師について学び修行すること。また、その僧。

＊銀子三貫目…金六十両に相当。

＊一跡…全財産。

＊髭の塵をとる…目上の者にこびへつらうことをいう。

＊色代…礼を尽くした挨拶。

＊徳…ここは損得の得に同じ。

問一　傍線部1「銀子さいかく」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 10 。

① 金もうけ　② 金の工面　③ 金の取り立て　④ 品物の仕入れ　⑤ 商売

問二　傍線部2「やがて」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 11 。

① すぐに　② そのうち　③ そのまま　④ ついに　⑤ しばらくして

問三　傍線部3「不興気にして」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 12 。

① 驚いた様子で
② 困った様子で
③ 興ざめな様子で
④ 何くわぬ様子ながら
⑤ けだるそうな様子で

問四　傍線部4「ずず」を漢字で書く場合、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 13 。

① 鈴　② 繻子　③ 厨子　④ 数珠　⑤ 葛籠

問五　傍線部5「かんにんのむねをさすり」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 14 。

① ひと安心して
② 考えを廻らせて
③ 怒りをこらえて
④ 慈悲の心を起こして
⑤ 胸の高鳴りをおさえて

問六　傍線部6「小言ないひ　A　」を「小言をいうな」の意になるように空欄Aを補うとき、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 15 。

① かし　② こそ　③ じ　④ そ　⑤ まじ

問七　傍線部7「ちかごろ〳〵御無心の事」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 16 。

① 近年の心ない噂の事
② 差し迫った借金の事
③ まったく他意のない事
④ はなはだ遠慮のない事
⑤ いつまでもきりのない事

問八　傍線部8「申し聞こゆ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 17 。

① 申し上げる　② 申し聞かす　③ 申し添える　④ 申し付ける　⑤ 申し伝える

問九　傍線部9「御ことわり申し候ふ」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 18 。

① 会えばとがめだてされるから
② 面会することができない状況だから
③ 顔を合わせたくない事情があるから
④ 直接会う必要はないと考えているから
⑤ 目覚めたばかりで身支度ができていないから

問十　傍線部10「冥加なく」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 19 。

① 縁起が良く　② 恐れ多く　③ お布施がなく　④ 体裁が悪く　⑤ 面目なく

三　次の文章は、中国の朱熹(朱子)によって確立された朱子学(儒学の一派)について述べた文章のうち、特にその「気」という考え方について述べた部分である。これを読んで後の問に答えよ。

この世界は気でできている。この気は実は定義が困難な概念である。おそらく近代以前、中国で気の定義が試みられたことは無かったのではなかろうか。気という概念はそれが何か説明するようなものではなく、既に［　A　］なものとして提示され、関心はその気がいかに働くかに持たれている。たとえば気を日本語として定義してみようとしても［　B　］に暮れるであろう。よく気の字が既に含まれた語を用いて気の説明が試みられるが、それでは定義にならない。英訳でも種々のものがあったが、アメリカでよく使用された物質的力(マティアリアル・フォーセズ material forces)にしても違和感を免れない。日本では幸田露伴が気を「におい」と解釈した。露伴はそのにおいとは単なる香臭だけではなく、色の艶、声の韻、剣の光、人の容などもそれであると言う(『努力論』)。やや日本語の「けはい」にも似ていようか。そのものならではの性格を感じさせるものが気なのであって、なかなかカクシンをついている。[1]

その中でイギリスの科学史家のジョセフ・ニーダム氏は、「マター＝エナジー matter = energy」として解釈した。これは、時には物質(マター)、時にはエネルギー(エナジー)として立ち現れるもの、ということである。我々は物質とエネルギーを分けて発想することに慣れているが、これはヨーロッパでも近世以後の考え方であって、それ以前は両者は同じものとして見られ、時に物質として、時にはエネルギーとして捉えられたと言う。

確かに気には物質として捉えられている側面と、エネルギーとして捉えられている側面とがある。たとえば物体はすべて気でできていると朱子学では考えるが、この場合は物質としての気である。また同時に朱子学ではこの世界のエネルギーの働きも気と言われる。人間に即して言えば、肉体は気でできているが、人間が起こす種々の働き、具体的には話したり動作したり思考したりといったこともすべて気と言われるのである。筆者はこれを広義の気と狭義の気として次のように整理したことがある。

「気(狭義の気)」＋「質(物質)」＝「気(広義の気)」

「狭義の気」はエネルギー、「質」は物質、「広義の気」はエネルギーであり同時に物質なのである。朱熹は時に「質は気」であると言い、時に「質」と「気」を対置させる。前者は「質(物質)」は「気(広義の気)」ということであり、後者は「質(物質)」対「気(エネルギー)」ということである。

朱熹はどちらかと言えば「狭義の気」の方を問題にすることが目立つ。それは朱熹が「気」に期待したのが、作用や運動の側面だからである。この世界は作用や運動に満ちている。というよりもこの世界は、[2]作用と運動、およびそれをもたらす機能によって個々の事物の意味が決まるのである。

この「気」は陰陽と五行という二つの側面を持つ。陰は静態的、陽は動態的であって、これは関係概念であることが既に指摘されてきた。つまり陰陽はその気がいかなる気と対置させられるかで陰陽配当が変わるのである。朱熹の意を体して筆者なりにたとえてみると、満月は［　C　］ようなものである。それに対して五行は関係概念ではなく、物質的素材の面が強い。五行は具体的には木、火、土、金、水であるが、[3]木は他の四者のいずれと対応させても木であって変わることはない。万物はこの五行が混ざってできている。人間の肉体も、五行の混成体である。

このように朱熹は関係概念と素材の両方によってこの世界の万事万象を説明しようとした。特に陰陽は重要で、このモデルは男女である。言うまでもなく、男は陽、女は陰であって、陰陽の関係に入った時、子供が生まれる。その子供も男女のいずれかであって、かくてかかる出産は限りなく継続していく。このように宇宙に満ちている気が陰陽の関係に入ることで新たな物を生み出し、それがまた次の物を生み出していく。これが「生生」であって、かくて世界全体は限りなく変化していく。

朱熹は気の作用の代表として「感応」と「消長」を言っている。「感応」とは「感(働きかけ)」＋(プラス)「応(反応)」であって、男女で言えば、男が働きかけ、それに女が応じて、子供が生まれるのである。これはいわば「作用」である。

もう一つの「消長」は、「消(衰退)」と「長(成長)」である。たとえば春から夏へは「長」であり、秋から冬へは「消」である。気全体は自身のエネルギーにより消長という自己運動を引き起こしていくのである。これはいわば「運動」である。

そして朱熹は「消長」は「感応」の一つであるとする。春は「感」で夏は「応」であり、その夏がまた「感」となり秋が「応」となる。つ

まり「春」によって「夏」が引き起こされ、その連鎖が続いていくとするのであって、これは空間的な「感応」が時間化されているのである。別の面から説明するなら、[4]春から夏への移行というものは無数の感応の集積が全体を変化させているということなのであるから、消長も感応なのである。

（土田健次郎『江戸の朱子学』による）

問一　空欄 A に入れる言葉として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 20 。

①確実　②完全　③単純　④簡明　⑤自明

問二　空欄 B に入れる言葉として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 21 。

①行方　②手段　③途方　④作法　⑤夕陽

問三　傍線部1「カクシン」を適切な漢字で記せ。**解答用紙(その2)を使用。**

問四　傍線部2「作用と運動、およびそれをもたらす機能によって個々の事物の意味が決まるのである」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 22 。

① 個々の事物の存在価値は、どれほど大きなエネルギーによって他者に働きかけていくかによって判断されるべきである。

② 個々の事物の存在意義は、それ自身と他者に対して、どのように効果的に働きかけることができるかによって明らかになる。

③ 個々の事物の存在形態は、他者に対してどのように働きかけ、また他者からどのように働きかけられるかによって決定されていく。

④ 個々の事物の存在のあり方は、それ自身のエネルギーによる変化や、他者との関わりによって生み出される変化によって明確になる。

⑤ 個々の事物の存在理由は、それ自身をもともと構成している物質と、そこからの変化を生むエネルギーとによって判明するはずである。

問五　空欄 C に入れる文として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 23 。

① 雲に隠れれば陰となるが、雲が晴れれば陽となる

② 日に対しては陰であるが、三日月に対しては陽になる

③ 三日月の時には陰であるが、満月の時には陽になる

④ 天頂にある時は陽であるが、山の端に隠れれば陰となる

⑤ 月見をする者にとっては陽であるが、風流心のない者にとっては陰である

問六　傍線部3「木は他の四者のいずれと対応させても木であって変わることはない」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24 。

① 五行の中の「木」は、物質的素材を言う概念なので、火や水など他のどの概念と対置するかによって性格が変わるわけではない。

② 五行の中の「木」は、それ自体が固有の物質的素材なので、火や水など他のどの素材と比較しても混同されることはない。

③ 五行の中の「木」は、それ自身のエネルギーによって万物を生み出すので、火や水など他の物質的素材に働きかけることはない。

④ 五行の中の「木」は、物質的素材の一つなので、火や水など他の素材と混ざり合っても、それ自体の性格が変化することはない。

⑤ 五行の中の「木」は、新たな物を生み出していくもとになる素材の一つなので、火や水など他の素材とは根本的に性格が異なっている。

問七　傍線部4「春から夏への移行というものは無数の感応の集積が全体を変化させているということなのであるから、消長も感応なのである」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25 。

① 宇宙に満ちている気が、自己運動として新たな物を生み出していくことにより、世界は絶えず変化していく。春から夏への移行も、そうした運動の一つなのであり、この世界の万事万象はそのような形でも説明できるのである。

② 世界を構成する物質が陰陽の関係に入ることによって新たな物を生み出し、また消えていく。そのように、春から夏への移行も、夏というものが生み出され、春というものが消えていく現象と考えることができるのである。

③ 世界に存在する無数の物質的素材が、それぞれの持つエネルギーによって無数の自己運動を生じ、それが混ざり合っていくことによって、世界全体の変化を生じている。春から夏への移行とは、そのように見ることもできるものである。

④ 世界中で常に生まれ続けている数限りない変化の連鎖が継続していくことにより、世界全体が限りなく変化していく。春から夏への移行とは、そうした世界の変化の一部を切り取って見たものなのである。

⑤ 春から夏への移行とは、世界全体が自身のエネルギーによって引き起こしている変化であるとも言えるが、それは、世界を構成するさまざまなものが、無数の働きかけと反応を連鎖的に行うことで生じている変化でもある。

問八　この文章の内容に合っているものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 26 。

① 朱熹の気という概念は、物質的な概念と理解されたり、エネルギーを指す概念と理解されたりして、時代によってさまざまな定義がなされてきた。

② 人間の肉体は気でできているという言い方は、気をエネルギーとして捉えた場合の表現であり、朱子学の考え方の一つの側面である。

③ 朱子学の気は、エネルギーを表す概念としての狭義の気と、それに加えた物質そのものをも含む概念としての広義の気として整理することができる。

④ 陰陽という概念は、気の静態的な性格と動態的な性格を対置して、それが関係概念であることを解き明かした、朱熹の思想の中でも重要な概念である。

⑤ 宇宙全体に満ちている気が、働きかけと反応によって消長をとげてゆく、その自己運動こそが、世界の限りない変化を生み出してゆくのである。

以下の問題は、日本文学科の受験生のみ解答すること。

四　次の文章は、女君（白露姫）のもとに男君が通い始めたころの様子を描いたものである。これを読んで後の問に答えよ。

十五夜の月さやかにさし上がりて、そこらおもしろく見渡さるるに、とばかりやすらひつつ、眺め給へば、前栽の花盛りに咲き乱れて、置き余りたる露の光、虫の声のいろいろ振り出でて聞こえたるなど、所からにや、ひとしほ御目留まりて、御指貫の裾もいたう[1]そぼちつつ、さまよひ給へるさまを、女も、めでたしと、人知れず御心とめて見ゐ給へり。人々も笑み栄えて、「かく所せからぬ御出で入りを見奉らばや、[2]いかばかりかは」と、聞こえ合ひたり。疎き女房は立ち交じらず、故母上のおはせし程より[3]まかで散らで堪へ候ふ老いたる御達など四五人、さる心しらひどもなれば、君も慎ましからず物語りなどし給ふ。「今宵だに、いとすさまじうよからぬさまに聞こえなすべき人もこそと、はばからるれば、まして、ほどほど、かやうにても参り通ひなんことの難からんを、[4]心の怠りに思ほしなすな。折々にても、ことなく行く末長く見馴れ奉らば、それにつけても心のやる方なるべければ」など、まめやかに宣ふを、「[5]およすけても見えさせ給へる御様かな。今少し世慣れたる御心ばへにて並び給はば、いかにいふかひおはせましを。いでや」など、[6]つぶやき聞こゆ。

女は、なほうちとけぬさまにそばみゐ給へるを、とかく言ひなぐさめて、なつき給ふばかりもてなし給へば、やうやう一言にても、慎ましからず、御いらへも聞こえながら、ものづつみしたる御本性にて、さらぬ折だにはかばかしく、言に出でてもものは宣はず。まして、かく盛りに若く清らなる御かたち人の、まだ昨日今日といふばかり、なづさひ給へる程もあらねば、いとま[7]ばゆく、消えも失せまほしう思し沈める。十に七つばかりや過ごし給ひけん、いとかばかりになりぬる人は、よろづ心やりて、心と世を過ぐす人もあり、やうやう憂き世のことも思ひ知り聞こえ給ふべき御齢なれど、ただほけほけと人に任せられて慣らひ給へればにや、埋もれいたくぞものし給ふ。君もいと[8]さうざうしく、あまりもて出でたる人の気配よりは、なかなか目やすく思しけれど、「今少し世づきたる気をとり加へばや」と思す。「よし、ともあれ、かく初々しき程を過ぐさば、よろしき頃ほひにも

てなほされんを」と思し返して、さるべき隙をはからひては、折々なれど、通ひ慣れつつ見え給へば、[9]さはいへど、ひたおもむきに、児(ちご)といふばかりにもおはせねば、やうやう目慣れて聞こえ交はし給ふ。

かく憎からぬ人の有様を、月日に添へて、心苦しくもあはれにも思しまされば、「[10]葛城山にゐる雲の」と、朝夕の立ち居につけて、忘るる隙なく恋ひ聞こえ給へど、阿*漕が浦を思しはばからぬにもおはせざりければ、さすがなる絶え間など、心にもあらでうち置き給ふを、女もあかず思さるるに、浅*沢小野を嘆き給はずもあらでなん、[11]蜘蛛(くも)の振る舞ひをやうやう待ち聞こえ給へるほどなり。

(『白露』による)

(注)

*阿漕が浦…現三重県津市阿漕町の海岸。禁漁地で、漁をする者は人目をはばかったとされる。ここでは、「伊勢の海の阿漕が浦に引く網も度重なれば人もこそ知れ」(『源平盛衰記』巻八)などの歌により、たびたび会うと人目につくことがはばかられることをいう。

*浅沢小野…現大阪市住吉区にあった湿地帯。「住吉の浅沢小野の忘れ水たえだえならであふよしもがな」(『詞花和歌集』)などの歌により、逢瀬が絶え間がちになることをいう。

問一　傍線部1「そぼちつつ」とは、ここではどういう様子を表しているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27 。

① ふくらかで美しい様子
② 涙でしめっている様子
③ 露で濡れている様子
④ 汗で足にまつわりついている様子
⑤ 糸がほつれてみすぼらしくなっている様子

問二　傍線部2「いかばかりかは」の後には、何らかの言葉が省略されている。どのような内容の言葉が入るか、現代語で答えよ。**解答用紙(その2)を使用。**

問三　傍線部3「まかで散らで」の文法的説明として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 28 。

① 打ち消しを表す助詞が1回使われている
② 打ち消しを表す助詞が2回使われている
③ 打ち消しを表す助動詞が1回使われている
④ 打ち消しを表す助動詞が2回使われている
⑤ 打ち消しを表す助詞と助動詞が1回ずつ使われている

問四　傍線部4「心の怠りに思ほしなすな」とは、どういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 29 。

① 今はなき母上のことをおろそかに思っているわけではないのです
② 身分違いであることを不満に思っているわけではありません
③ 周囲の人々の心配りが足りないのだと思ってはなりません
④ あなたの努力が足りないのだと思う必要はありません
⑤ 私の愛情が足りないのだとは思わないでください

問五　傍線部5「およすけても見えさせ給へる御様かな」とは、どういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 30 。

① 女君は、幼いご様子でいらっしゃる
② 男君は、おとなびたご様子でいらっしゃる
③ 女君は、男君に対して気が引けていらっしゃる
④ 男君は、女君のお気持ちをよくおわかりでいらっしゃる
⑤ 男君と女君はどちらも美しく、お似合いのご様子でいらっしゃる

問六　傍線部6「つぶやき聞こゆ」とは、誰がつぶやいたというのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 31 。

① 男君
② 女君
③ 疎き女房
④ 老いたる御達
⑤ よからぬさまに聞こえなすべき人

問七　傍線部7「まばゆく」とは、ここではどのような様子を表しているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 32 。

① 神々しい様子
② よく似ている様子
③ うしろめたい様子
④ 気後れしている様子
⑤ ねたましく感じている様子

問八　傍線部8「さうざうしく」とあるが、ここでは「さうざうし」はどういう意味で用いられているか、答えよ。**解答用紙(その2)を使用。**

問九　傍線部9「さはいへど」とは、ここではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 33 。

① 男君が若々しいとはいっても
② 女君が世慣れないとはいっても
③ 男君がなかなか通って行けないとはいっても
④ 女君の周囲の女房達が好意的であるとはいっても
⑤ 二人の関係がまだ始まったばかりだとはいっても

問十　傍線部10「葛城山にゐる雲の」は、「あしひきの葛城山にゐる雲の立ちても居ても君をこそ思へ」(『拾遺和歌集』)をふまえた表現である。『拾遺和歌集』は、十一世紀初頭の成立と見られるが、これに最も近い時代に成立した作品を、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 34 。

① 『古今和歌集』　② 『新古今和歌集』　③ 『源氏物語』　④ 『平家物語』　⑤ 『今昔物語集』

問十一　傍線部11「蜘蛛(くも)の振る舞ひをやうやう待ち聞こえ給へるほどなり」は、「わがせこが来べき宵なりささがにの蜘蛛のふるまひかねてしるしも」(『古今和歌集』)をふまえた表現である。この表現の意味する内容として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 35 。

① 女君は男君の来訪を待ちこがれるようになった
② 女君は男君との逢瀬が絶えることを嘆くようになった
③ 男君は女君のもとに足繁く通うようになった
④ 男君は女君に対してやさしく振る舞うようになった
⑤ 男君と女君は、互いに次の逢瀬を待ち遠しく思うようになった

問十二　この文章の内容に合っているものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 36 。

① 男君は、母を早く失ってしまったが、母の代から仕えていた人々に育てられて悲しみから立ち直り、立派に成長した。

② 男君はまだ十七歳ほどだが、その年齢にはよくある夢見がちな少年ではなく、しっかりと現実をわきまえて生きている。

③ 男君は、自分が人目を気にして女君のもとになかなか通えないために、女君がうちとけてくれないことを、さびしく思っている。

④ 男君は、この時期を空しく過ごしてしまうと取り返しがつかないと考え、折を見ては女君のもとに通い、愛をはぐくんでいった。

⑤ 男君は、引っ込み思案で子供っぽい女君に不満もあったが、絶え間がちながら通っているうちに、いとしさがつのっていった。